

読売新聞

2016年(平成28年)

11月6日 日曜日

全国の乳腺外科診療機関の調査結果をもとに特集された「病院の実力 乳がん」で、和歌山版では紀和ブレスト(乳腺)センターが取り上げられました。

和歌山

和歌山支局 〒640-8241 和歌山市橋本町東1丁目16

病院の実力「乳がん」

医療機関別2015年治療実績
と検査体制(読売新聞調べ)

医療機関名	全手術 (件)	同時再建手術 (件)	再発リスク検査 (できる場合は○)	遺伝性乳がん・卵巣がんの遺伝子検査 (できる場合は○)
和歌山県				
県立医大	191	25	○	○
日赤和歌山医療セ	180	6	○	○
公立那智	60	1		○
紀和	55	9	○	○
済生会和歌山	43	3		
国・南和歌山医療セ	42	1		
紀南	31	0		

「国・」は国立病院機構、「セ」はセンター、「ク」はクリニック。

自己検診で異変察知

乳がん

女性にできるがんの中でも最も罹患率が高いと言われている乳がん。橋本市岸上の紀和ブレストセンターで、「自己検診」の方法をピンクリボンアドバイザーを務める中西郁代看護師(56)、病院での検診については梅村定司センター長(50)に話を聞いた。(石黒彩子)

紀和ブレストセンター

中西郁代看護師

梅村定司センター長に聞く

乳がんは40歳代からなりやすくなるといわれています。原因や確かな予防法があるわけはありません。だからこそ「自己検診」が大切です。月1回は胸を触

病院の実力

*和歌山編 105

鏡の前に立ち、まずは乳房を観察します。極端な左右差はないか、皮膚の引きつ

りや不自然なへこみはないかなどを腕を下ろした状態と万歳の状態で確認します。次に、実際に触ります。片手を上げ、もう一方の手のそらえた指の腹で、少し力を入れ、滑らせるように鎖骨から乳房の下の部分まで、しこりなどがないか触



自己検診の大切さを話す中西さん(左)と梅村センター長(橋本市岸上の紀和ブレストセンターで)

放射線照射 温存に道

今回の「病院の実力」では、女性のがんでは最も多い乳がんを特集する。一覧表では、①全手術件数②同時再建手術の件数③再発リスクを調べる検査の有無④遺伝性乳がん・卵巣がんの検査体制——を掲載した。手術には乳房切除術(全摘)と温存手術がある。一般的に、しこりが3センチ以下

で多発していなければ、周辺組織を1〜2センチ含めて切除し、その後に放射線照射を行い、乳房を温存できる。しこりが大きめでも手術前に化学療法を行うことで温存できることもある。2013年、人工乳房による再建手術が保険適用になった。対応できる病院も増え、全摘手術が選

ばれる傾向も強まっている。希望する人は、病院での実績を調べておいた方がいい。近年、導入が進んでいるのが、がん細胞の遺伝子で再発リスクを調べる検査だ。代表的な検査キットは「オンコタイプDX」で、手術後に化学療法を行うかどうかを決める目安にもなる。検査前に遺伝子(万〜30万円)を検討することになる。検査前に遺伝子とウンセリングで、遺伝性かわかった後の対応などについて詳しい説明が行われる。

OKI

電子交換機
電子ボタン電話

沖電気特約店

増尾電設

和歌山市三番丁4

424-3311

毎月第1火曜に午後6〜8時の夜間検診も行っています。看護師や放射線技師は女性が担当し、火、木曜には女性の医師もいます。怖がらず、まずは検診を受けてみてください。